

ふる里に支えられ5年

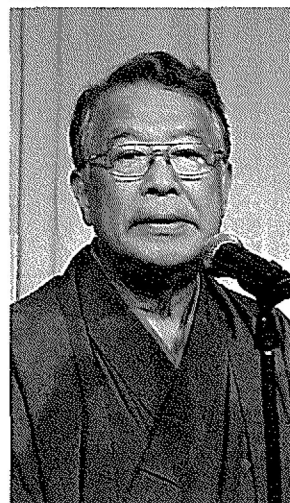
〈蘭燃〉東京ベイ倶楽部でディナーショー

十日町内外でプロ歌手として活躍している蘭燃の後援会（会長 春日寛東京十日町会会長）主催の第5回記念ディナーショーが13日、東京ベイコート倶楽部で開かれた。十日町出身者が中心となって立ち上げた後援会による最高のステージで、ふる里の人々に包まれ蘭燃は輝いた。



最高のステージで輝く蘭燃

蘭燃ディナーショーは同倶楽部会員の春日会長の手入りで開催され、今年で5回目。華やかなステージで、女性コーラスと時には弦楽3重奏をバックに11曲を歌いきった。



後援会長の春日十日町会会長

春日会長は「石の上にも3年」という諺があるが5年経った」と述べた。記念コンサートだからと、友人の三原綱木をゲストに呼び、また桜の会の役員やミス桜の女王を招き、花を添えた。中越震災で被災者を慰めようと作った歌「空になろう」から10年。その歌も今ではCMソングに採用されるほど、大きく羽ばたいている。地元エフエムとおかまちで

コーナーも持っている。「5回も出来るなんて、夢にも思わなかった。続けたいという気持ちはいっぱいでしたが、先のことは考えられず、その時その時精一杯でした」と感激ひとしお。「プレッシャーはあったが、春日先生をはじめ、後援会の皆様のバックアップで5回目もさせていただきました。終わりの時のお客様と私の気持ちが重なり合ったような

ブルーコメッツは十日町で生まれた

ゲストの三原綱木がカミングアウト



瞬間が大好き」と喜びを語った。

ラストソングは、1回目のディナーショーの最初に歌った、春日会長が大好きな曲「アメージングクレス」をアンコールに迎え「感謝を込めて」アカペラで歌った。「よかったよ！今までで一番良かった」と春日会長は成功を称えた。

ゲスト出演した三原綱木が「ジャッキー吉川とブルーコメッツは十日町で生まれた」とカミングアウトして観衆をビックリさせた。「写真は三原さん（左）と談笑する蘭燃さん」

三原さんは、誰もが知る二世を風びしたGSブルーコメッツのメンバーで、その後ニューブリードのバンドマスターとして紅白歌合戦など、今もポップス界の第一線で活躍している大スター。こ

の日はプライベートな雰囲気でお二人のケイ・アンナさんと2人でスタンダードナンバーを楽しみながら歌った。綱木の名前は、新潟県綱木村生まれだったことから。春日会長とはスポーツジムで知り合い新潟県同志だったこともあって意気投合、以来親しい付き合いとなった。

GSブルーコメッツ誕生の秘話は、約50年前、ブルーコメッツは、尾藤イサオのバックバンドだった。十日町公演があった時、主役の尾藤イサオが酒を飲み過ぎ、越後川口駅を通り越して新潟まで行ってしまった。昔だからもう間に合わない。しょうが無いのでブルーコメッツだけでショーをやったらこれが大受け。それからドーンと売れ出した、と話し、大喝采を浴びた。